



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

- 主な記事**
- 1面…もえくさ
  - 2面…府社協会長・府知事 新年あいさつ
  - 3面…京都府社会福祉大会を開催
  - 4面…NPO法人 活動の紹介 生活支援センターあすく
  - 6面…つながろううみだそう 企業と福祉 京都から
  - 7面…第三者評価受診事業所 紹介 あやべ作業所
  - 8面…寄付のお礼 見守りフォーラムのご案内

いこいの村 栗の木寮(綾部市) しめなわ作り「笑顔で円満な年でありますように!!」

## もえくさ

あけましておめでとございませう。

この新年号の表紙を飾っている写真の「しめ縄」は、万葉集に見られる「標縄」、水を注いで連ねた故事から「注連縄」、また藁を七・五・三と垂らすところから「七五三縄」とも表記される。正月の玄関、神社の拜殿、相撲の横綱など、いずれも縄をかけた内側への不浄悪穢の侵入を防ぎ、清浄な状態に保たれることを示し願うものである。▼近年、侵入を防ぎたい悪戯が社会に噴出している。社会保障・社会福祉の玄関にも、

頑丈なしめ縄を結ぶときである。昨年の新語・流行語大賞の候補には、「蟹工船」「後期高齢者」「ホームレス中学生」「汚染米」「ねんきん特別使」など、人間らしい生活と労働を求める多くの人々の実感が反映されていた。▼「人の命がこれほど軽くなった時代はない」(五木寛之氏)といわれるように、介護殺人や児童虐待死、10年連続自殺者3万人超、健康保険証がなく医療にかかれない子ども、医者不足・受診拒否で妊婦や乳児が死亡する事件など、痛ましい状況がある。労働分野では、昨年10月から今年の3月にかけて非正規雇用労働者の解雇・雇止めが3万人を超える(厚生労働省調査)という。▼「炭鉱のカナリア」という言葉がある。今、このカナリアの役割を担っているのが派遣労働者やひきこもりなど「生きづらさの臨界」にある人々ではないかと警鐘する声がかかる。▼「LO」が1999年に「ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)」の実現を提起してからちょうど10年。その戦略として掲げられた4つの柱(「働く人の権利」「雇用と収入」「社会的保護と社会保障の強化」「社会的対話の強化」)が、いま私たちの社会に改めて問われているように思う。▼「骨太方針2006」以来、毎年社会保障費が2200億円抑制されてきた路線が、ようやく軌道修正される流れが出てきたが、昨年の漢字「変」にあやかり「変化・変革」へと加速してほしい。▼今年は1月1日午前9時に、天文時刻と原子時計とのズレを調整する「うるう秒」が挿入された。この機会に、命や人間らしさが何よりも大切にされ、「安心感があり、誰もが生きやすい社会」へとリセットする、心新たな一歩を皆様方と一緒に踏み出したい。

本年もよろしくお願いたします。

# 住みなれた地域で“その人らしく”暮らしていくこと

京都府社会福祉協議会 会長 立石 義雄



あけましておめでとございます。  
昨年は、企業の社会貢献活動を、京都の福祉の新たな創造につなげることをめざした「福祉パートナー事業」の取り組みも徐々に広がりを見せ、年末に開催しました「企業と福祉の出会いを応援する地域展開型CSR推進フォーラム」におきましては、多くの方々にご参加いただき、企業・福祉の双方から取り組みへの歓迎と今後の展開に期待の声を寄せいただきました。また、「安心と希望の持てる温かい地域づくり」実現に向かって、市町村社会福祉協議会や民生委員・児童委員など地域福祉の関係者とともに、地域住民が主体となった「見守り活動」の支援を府内一円に広げ、推進してまいりました。こうした社会福祉施設への支援や地域支援の活動が展開できますのは、京都府をはじめ関係各位の温かいご理解とご支援及び第一現場の皆様方の熱心なお取り組みの賜ものと深く感謝をしております。

さて、現在、経済社会を取りまく環境が厳しくなっている中で、雇用や生活不安が強まっていると同時に、家族構造の変化や地域生活における人間関係の希薄化、地域共生力の脆弱化が進行しており、「地域・家族の再生」や「つながりの再構築」が強く求められているところです。

厚生労働省の「これからの地域福祉のあり方研究会」の報告書では、住民自らによるきめ細かな福祉活動があらためて重視され、住民と行政の協働による新しい福祉の構築という考え方が謳われたところです。

今年は、こうした新たな動向を踏まえ、本会が重点的に取り組むべき課題に向かって、「第2次中期計画」を策定し推進してまいります。本会といたしましても、様々な福祉問題を抱える人々のニーズを地域社会でしっかりと把握し、住み慣れた地域で“その人らしく”暮らしていけるように、新たな協働とより広範なネットワークの構築をめざし、皆様と手を携えて取り組んでまいりたいと思っております。

本年も昨年同様、ご指導、ご協力をよろしくお願いたしますとともに、新しい年の始めに当たり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

府民の皆様、あけましておめでとございます。  
昨年は、北京オリンピックで京都府ゆかりの多くの選手が活躍され、また、京都と縁の深い益川敏英氏、小林誠氏、下村脩氏がノーベル賞を受賞されるなど、京都府民として誇らしい年となりました。また、源氏物語千年紀では、記念式典に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、「古典の日」宣言を行うなど京都の未来を文化の力で照らす大きな可能性を示すことができました。

ただその一方で、世界的な金融危機が景気の急速な後退をもたらした。府民生活に大きな影を落とすつつあり、生活への不安感が拡大したまま新たな年を迎えることになりました。

しかも、このような厳しい経済状況の中で、府民を支えていかなければならない立場の京都府において一連の経理事件が起きたことは、誠に申し訳なく思っており、心からおわび申し上げます。府民の皆様の信頼を回復していくためには、徹底した再発防止と、京都府が厳しい時期を乗り切るべく死力を尽くすことしかないと思っております。

それだけに、今年は、今一番厳しい立場にある中小企業や雇用の不安を抱えている人たち、また高齢者や障害のある方々など社会的に弱い立場にある人たちをしっかりと支えていく府政を第一に、その上に「京都の持つ豊かな力」が発揮できるよう、府民生活の基盤である「地域」に活力を取り戻し、京都の産業力を強化するための取り組みを進めたいと考えています。

## 府民生活を支える「力」を集めて、信頼の「京都」へ

京都府知事 山田 啓二



ありがたいことに「京都」には、長い歴史の中で常に新しいものを生み出し続けてきた文化力と環境と共生しながら創り上げてきた思いやりの心があります。この京都の「力」と「心」こそが今の厳しい時代を乗り切る鍵であり、「心の世紀」二一世紀の日本のモデルを京都から発信していきたいと思っております。こうした京都の力は、京都の人の力であり、京都の心は京都の人の心です。行政は、京都の人たちが力を発揮できる環境を整え、京都の「人」のパワーアップを行う機関でなければなりません。

京都府では一昨年来、「地域力の再生」を目標に掲げ、地域でがんばる皆様とともに、地域が元気になる取り組みを進めてまいりました。これまで七百を超える連携・協働の活動が行われており、まさに京都の力を増し、京都の心を発揮する取り組みの輪が広がっています。他にも、総合就業支援拠点「京都ジョブパーク」、京都モデルフォレスト、京都産業工「推進機構」などの取り組みが、皆様との連携・協働で着実に成果を上げています。また、平成三年には、「国民文化祭・京都二〇一一」が開催されます。

これからも、京都府庁も府民サービスの最大化を目指して、すべての施策が府民起点で行われるよう全力を挙げて改革に取り組んでまいります。皆様にも、京都を良くし、京都の力をアップし、京都の心を発揮する多くの取り組みにご理解をいただき、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

結びに当たり、この一年の府民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

# 第57回 京都府社会福祉大会を開催

11月28日（金）、京都府民総合交流プラザ（京都テルサ）に於いて第57回（平成20年度）京都府社会福祉大会を開催しました。

当日は、京都府内（市内を含む）全域から多勢の方々にご参加いただき大盛会となりました。

第一部は、表彰式典が行われ、永年にわたり社会福祉事業に貢献された民生委員・児童委員、社会福祉施設、団体、社会福祉協議会の役員の方々や、ボランティアとして活躍された方、また、多額のご寄付やご協力をい



ただいた方々が表彰状・感謝状をお受けになりました。知事表彰では64名、24団体、府社協会長表彰・感謝は187名と65団体、府共募会長表彰・感謝は132名、183団体へ表彰状、感謝状が贈呈されました。

式典の最後には、社会福祉の向上に取り組みでいくことを広く府民にアピールするため大会決議が確認されました。

第二部は、記念講演として、「愚直にーいらっしやいませ『ほのぼの屋』へー」をテーマに、社会福祉法人まいづる福祉会ワークシヨップほのぼの屋施設長の西澤心氏に講演いただきました。

西澤氏は、障害者の人としての願いにどこまでも「愚直」に込えていくために、京都府内初の店舗型作業所古本屋「ブックハウスほのぼの屋」、直接農家買い付けの米屋「米蔵なごみ本舗」、本格的フレンチレストラン「ほのぼの屋」とブライダル、ミニホテル「おー

## 決議文

近年、急速な少子・高齢化の進行に加えて経済状況の深刻化を背景に、地域における人と人とのつながりが希薄化し、子育て不安や児童虐待、ひきこもり、高齢者の孤立化等、様々な生活課題が浮き彫りになるとともに多様化、複合化の様相を呈しています。

また、高齢者や障害者、児童などが、非行犯罪や災害の被害者となるケースが増加しており、防犯、防災対策の面からも、地域のネットワークの強化が求められています。

これらの課題を解決するために、公的な福祉サービスの充実整備を図るとともに、住民参加による地域における新しい支え合いの仕組みづくりを進めていくことが重要です。

こうした中で、社会福祉協議会、共同募金会、社会福祉施設、民生委員・児童委員、ボランティア、行政は、それぞれの得意分野を活かし、地域の様々なニーズに的確に対応するため住民と連携・協働して、地域力を向上させ、地域福祉を推進していく役割を果たすことが求められています。

この大会を契機に、私たちは、地域社会の一員としてそれぞれが自らの役割を認識し、府民一人ひとりが、住み慣れた地域で安心して安全・快適に生活できるよう、地域のネットワークを活性化し、みんなで作る新しい仕組みづくりの構築に尽力していくことを決意するものです。

以上、決議します。

平成20年11月28日

第57回京都府社会福祉大会

催された「2008ワーカビリティ・インターベージゅどぼの」の開店・経営など、障害者の所得確保に創造性とアイデアを存分に発揮されてきたこれまでの取り組みをお話いただきました。また、本年9月に北海道札幌市で開催された「2008ワーカビリティ・インター



ナショナル世界会議」で上映され、好評を博した利用者と家族のドキュメント映画「『病氣』と『ほのぼの屋』と『僕たちの未来』」を合わせて観ていただき会場は感動の渦に包まれました。

会場ロビーにおいては、共同募金運動のポスター、パネル展示、ボランティア情報紙の紹介・配布、障害者施設授産製品の展示・販売等を行う「ボランティアコーナー」を設け、たくさんの方で賑わいました。その中で特に、今年度は、地域のボランティアグループや団体、NPO等がその場に参加し、自ら自分たちの活動について発表する「参加型」の試みとして、「みる・きく・はなす」ボランティア活動発表会」を行ない、楽しく元気あふれる取組みが紹介されました。

【ポスター発表団体】

- ①NPO法人京都でこいランド（京丹波町・居場所づくり）、②ハーモニカ同好会ホッポバンド（長岡京市・施設訪問）、③NPO法人認知症予防ネット（宇治市・認知症予防）、④メンズボランティア手助け隊（城陽市・日常生活支援）、⑤子育て支援ボランティアすくすくやぎっこ（南丹市・子育て支援）

# そんな社会をめざして

ここ数年、自閉症・発達障害という言葉を目にする機会も増えてきました。

今号では京都でいち早くこの分野での活動に取り組んでいるNPO法人「生活支援センターあすく」を取材しました。

「生活支援センターあすく」を取材しました。

## 自閉症や発達障害を持つ人の生きづらさの理解を

自閉症や発達障害を持つ人が抱える「しんどさ」の現われ方は、様々な形があります。感覚の偏りなどもその一例です。例えば電車内の音、揺れ、人との接触など、公共交通機関で移動することそのものが、「強い刺激、強いストレス」の原因となる人がいます。光や音、匂いが感覚の洪水となって押し寄せてくることの「しんどさ」はその人の独特の感覚といえます。



「工房あすく」の田畑卓之所長は、そんな自閉症や発達障害を持つ人の認知の特性を理解することが大切だと言います。例えば病院に行つて、次は何をされるのだろうかと不安になった経験がある人もいると思います。その不安に対して私たちは言葉による意思疎通や経験想像力で補い対応しようとしています。しかし、自閉症の人たちにはそれが難しいため、

文字や写真・絵カードなどの視覚的な手がかりを示すことで、場面の意味を分かりやすくして、コミュニケーションの手助けとしています。

## NPO法人生活支援センターあすくとは？

生活支援センターあすくは、京都府自閉症協会が2001年3月に設立したNPO法人です。法人として、京都市内では数少ない、自閉症に特化した日中活動支援事業所「工房あすく」を運営しています。現在の利用者は9名で、作業、家事の練習、社会参加の練習、余暇活動、時にはゆっくり過ごす活動などを通じて、一人ひとりに応じたプログラムに基づく支援が行われています。

また「工房あすく」の運営以外にも、自閉症や発達障害についての理解や実践活動を広めるためにさまざまな研修を開催しています。研修開催に際しては、京都市発達障害者支援センター「かがやき」と連携しています。教職員、施設職員や保育士などが主に参加していて、好評だそうです。

## 本人に合わせた支援を提供 「あすく」が大切にしていること

近年、自閉症や発達障害と診断される人が多くなっています。これは自閉症や発達障害の人が増えた



工房あすく 所長 田畑 卓之さん

■NPO法人生活支援センターあすく  
<http://npoask.blog.so-net.ne.jp/>

■工房あすく  
<http://koboask.blog32.fc2.com/>

というよりむしろ、「その存在に今まで社会が気付いていなかっただけではないか」と田畑所長は語ります。特に「知的な問題はほとんどないけれども、発達障害があるために社会に居場所を見つけない」という人たちの行き場を作ることが大切だ」と言います。

また、「親は心配するけれども本人たちは社会に出て行くイメージが持てなかったり、不安が強く社会に出ようという気持ちになれないこともある」という話を聞くと、この障害を受け止め支援していくことの難しさを感じます。少しずつでも社会と関わっていたという思いを本人たちから感じる時、「社会は怖くないよ、あなたに合わせた形の居場所は

## 料理



写真で作業手順も一目瞭然

# 自閉症でOK!

NPO生活支援センターあすく



## 自閉症がハンディキャップとまらない地域社会を

あるよ」と伝えていきたいと所長は言います。  
「自閉症の人は共通する特徴があるがその現れ方は一人ひとり違う。工房あすくの活動メニューに合わせてるのでなく、その人が好きで、何が得意で、どんなニーズを持っていて等々... そこから出発しなければプログラムを作ることはいかない」という言葉に「あすく」が大切にしたい原点があります。

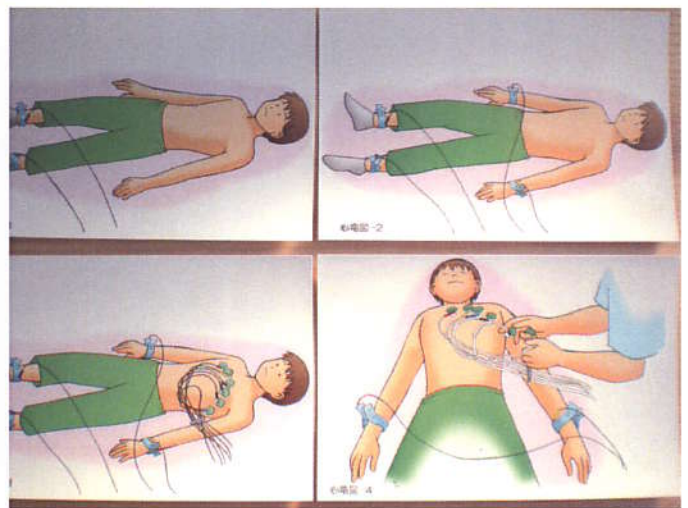
「工房あすく」は障害者自立支援法上の生活介護及び自立訓練（生活訓練）事業所としての指定を受

けています。このうち自立訓練は、制度としては2年の期間内で成果を出すことを求められています。その次のステップとして想定されている企業就労あるいは就労継続支援事業所への移行は、今の利用者

者の多くにとっては、高いハードルになることが予想されます。また、それが本人たちへの支援として良いとも限らず、2年過ぎた後の一人ひとりの将来像をどのように描くのが模索中とのこと。

自閉症や発達障害があっても、特別な支援が無くても生活していける人はいるかもしれません。でも、その時々場の場の意味や環境が分かりやすく説明されれば、もっと楽に生活していくことができるのです。

スケジュール	
11/10(月)	11/11(火)
9:20 <input checked="" type="checkbox"/> 休けい	9:20 <input type="checkbox"/> 休けい
9:40 <input checked="" type="checkbox"/> しりょうづくり① <input checked="" type="checkbox"/> まどふきC <input checked="" type="checkbox"/> しりょうづくり② <input checked="" type="checkbox"/> ダンボールカット① <input checked="" type="checkbox"/> 休けい	9:40 <input type="checkbox"/> しりょうづくり <input type="checkbox"/> まどふきC <input type="checkbox"/> しりょうづくり <input type="checkbox"/> ダンボールカット <input type="checkbox"/> 休けい
10:30 <input checked="" type="checkbox"/> しりょうづくり③ <input checked="" type="checkbox"/> まどふきD <input checked="" type="checkbox"/> しりょうづくり④ <input checked="" type="checkbox"/> ダンボールカット② <input checked="" type="checkbox"/> 休けい	10:15 <input type="checkbox"/> さんぼ かまがわ
11:30 <input checked="" type="checkbox"/> しりょうづくり⑤ <input checked="" type="checkbox"/> ろうかこらこら	



心電図 絵カード

「自閉症や発達障害を持っている人は、ややもすると世間から排除されやすい。最終的には、自閉症でOK!」という地域社会を作っていきたい。そのためにも地域社会で生活できる方法や事例をどんどん発信していきたい」と田畑所長は話します。

特性や不安を理解することが非常に重要です。また、自閉症の人たちに行く視覚的な手がかりを掲示する支援は、私たちにとても分かりやすいと言えます。自閉症、発達障害を理解し、必要な支援のしくみをつくっていくことは、自閉症など診断名のあるなしにかかわらず、子どもから高齢者まで全ての人が暮らしやすい社会づくりにつながるのではないのでしょうか。

「暮らしをトータルに支援していくことが目標。将来的にはヘルパー事業や緊急時のショートステイ、ケアホームも必要だろう」と田畑所長はこれからは描きます。「工房あすく」の活動とともに、「自閉症の人が分かりやすい社会はみんなにとって分かりやすい社会」とするために、私たちができることを引き続き考えていきたいと思えます。

## 施設単独の取り組みから地域を巻き込んだ取り組みに ～ 長田野地域一体となったふれあい広場 ～



10月12日(日)、福知山市長田野町で福祉施設と長田野工業センター(41社)が共同し、住民との交流を深める「地域ふれあい広場」を初めて開催しました。

これまで年に1回、知的障害者施設の福知山学園が単独で開催をしてきましたが、4年目を迎えた今回は、同学園の矢尾施設長からの要請で本会が仲介し、工業センターに話をもちかけたところ、

会場の無償提供から話が進み、近隣にある同じく障害者施設「ききょうの杜」にも声をかけ、地域を巻き込んだ広場が実現しました。

当日は、情緒障害児短期治療施設「るんに学園」の子どもたちによる太鼓の音や掛け声を皮切りにふれあい広場がスタート。野外広場では施設によるバザーのテントなど大変な賑わいを見せました。管内のステージでは作品展、落語家による落語が行われ、笑い声であふれていました。

また、同時に工業センターの従業員たちによる「ボランティア活動隊」発足式が行われました。

これは、同センター会員企業と従業員有志で構成され、今後は企業の社会貢献活動の一翼として、福祉や災害ボランティア活動をする予定です。

施設、センター関係者共に「今回のつながりをきっかけに来年も」との声が上がっていました。

### 工業センター + 障害者施設

## 出張理容サービスで失業者支援



「ピースオブヘア」は、近鉄伏見駅近くにあるヘアサロンです。代表の赤松隆滋氏は、2005年の開店当初から児童養護施設でカットボランティアを続けてきました。

3周年を迎えた今年、さらに活動の幅を広げたいとの思いから、高齢や認知症病气や障害などにより理美容室に来ることができない方を対象に、自宅や施設・病院に向く「訪問カットピース☆」を立ち上げました。しかし、なかなか具体的な活動につながらず、本会へ相談を頂きました。

本会職員と活動先を検討する中で、高齢者や失業者の支援団体である「ソーシャルサービス協会ワークセンター」が運営する宿泊施設「ソーシャルホーム」が

候補にありました。南区上鳥羽の「ソーシャルホーム」では、福祉事務所の紹介により要保護者の男性路上生活者が入寮しています。施設と調整の結果、11月10日に第1回目の活動を実施することとなりました。

必要な機材は「ピースオブヘア」が持ち込み、施設の一角に簡易な美容室を設置。この日のカット希望者は4名。事前に入寮者に呼びかけ、希望者を募り、カットにかかる費用は、施設負担としました。

髪型の希望を聞き取って早速カットの開始。約20分後にはきれいさっぱりとした髪形へと仕上がります。利用者もすっきりとした笑顔をされていました。赤松さんは「私達の出来る仕事が社会貢献に繋がっているなら、とても有意義な事今後も定期的に訪問して、入寮者の自立へのお手伝いが出来ればうれしく思います」と話をされていました。

### 美容室 + 失業者支援団体

きょうと福祉パートナー事業では、こうした企業と福祉それぞれの立場からお互いに新たな価値を生み出す協働の場作りを積極的に推進しています。この取材の詳細はホームページで紹介しています。(http://www.f-partner.jp/)

## 第三者評価受診事業所の紹介～利用者のためのサービス提供に向けて～ あなたも第三者評価を受診しませんか？



第三者評価受診事業所からの報告  
社会福祉法人綾部福祉会 あやべ作業所施設長 亀井博幸

### \*受診にあたって

たが、障害者自立支援法施行、社会福祉情勢、平成6年4月の開設以来、諸事故等により、今まで以上に、「透明・施設経営全般について第三 開示・公平・安心・安全」性が、施設として求められるようになります。

このような社会の要請に対応すべく、また、利用者・家族に「安心・安全」サービス提供を第一義とした「福祉財産」が安定経営できるよう、「福祉サービス第三者評価」を受診することになりました。

## ライフステージの「主役」は利用者

～安心・安全な「福祉的共有財産」を目指して～

### \*受診の取り組み

受診にあたり、施設長、管理者、支援員、事務員、調理員で「サービス評価委員会」を構成し、受診目的、スケジュールの確認、資料作成（チェックシート、アンケート等）に向けて「委員会」を開催しました。各職種の委員から意見が出されて、今まで気がつかなかった点も新たに発見できたことで、職員間の連携の重要性・必要性を感じました。

また、課題や成果も見えてきて、経営見直しの良い機会ともなり、意義がありました。

### \*今後に向けて

受診評価結果を全体で真摯に受け止め、もう一度確認・共有し、原点に戻り、サー

ビスの改善に活かすことが大切です。地域に根ざした「福祉的共有財産」を更に充実させるため、広報誌等による事業内容の公表、サービス向上とイベントへの参加・参画等を引き続き積極的に進めます。

今後は、基本理念を念頭におき、利用者・家族等の「声」にも率直に耳を傾け、安心して利用していただける障害福祉サービス事業所、ライフステージの場として、事業を推進します。



人権擁護啓発ポスターコンクール  
京都府社会福祉協議会会長賞決まる!



京都府立綾部高等学校 2年 大槻 朋世さん

【講評】

四人の大きさ、ポーズ、色、形、どれも違う個性として表現され、みんなが笑っています。楽しいリズム感のある、元気の出る作品として評価されました。

ご寄付ありがとうございました

下記団体様よりご寄付を頂きました。  
京都の福祉発展のために有効に使わせて頂きます。  
ありがとうございました。

- 全労済京都府本部
- 株式会社白寿生科学研究所 京滋統括事業所
- 近畿労働金庫京都府本部
- 自由同和会京都府本部
- 財団法人 京遊連社会福祉基金

=平成20年度高齢者見守り隊事業=

「見守りフォーラム」  
のご案内

「見守りフォーラム2008 in きょうと～見守りは地域づくりの出発点！次につながる視点と工夫を学ぼう～」を開催します！

高齢者の孤立・孤独など「暮らしにくさ」が課題となる中、見守り活動でつかった課題やニーズを次の展開へつなげていく視点や方法を学びます。多数のご参加お待ちしております。

日時 平成21年1月19日(月) 13:00～16:30  
対象 府内各地で見守り活動に取り組む方々、市町村社協役員、行政等【定員200名】  
会場 平安会館2階東山  
(京都市上京区烏丸通上長者町上ル)

内容 [基調講演]  
ご近所の輪を広げませんか?～誰もがわかるしくみづくり～  
—ボランティアグループすずの会(神奈川県川崎市)  
代表 鈴木 恵子 氏  
(日本地域福祉学会 第5回地域福祉優秀実践賞受賞)

[パネルディスカッション]

●[実践報告]

- ①南町サポーター 福田 作二 氏  
(木津川市加茂町)
- ②サポートい輪や 代表 永濱 誠彦 氏  
(与謝野町岩屋地区)
- ③京丹波町社会福祉協議会  
前田 稔 氏

●コーディネーター 佛教大学 社会福祉学部 社会福祉学科  
教授 藤松 素子 氏

■詳細のお問い合わせ・申し込み

地域福祉・ボランティア振興課(担当:西村)  
TEL: 075-252-6294

京都の福祉 毎月1日発行 昭和36年7月26日 第3種郵便物認可

発行所 京都府社会福祉協議会  
発行人 森 育 寿  
〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375  
TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310  
URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>



「京都の福祉」は、よりよい内容にするために、読者の皆様にアンケート(別紙)を実施しています。  
ご意見、ご感想をお寄せ下さい。

詳しくは

京都府社協

検索